

土壌蓄熱式輻射暖房システム  
サーマ・スラブ  
敷設工事概要

サーマエンジニアリング株式会社

## 別紙1 施工手順ビジュアル版

### <準備>

1. 電熱パネル搬入後、養生のためブルーシートで覆う。



2. 埋め込まれているたこひもを利用してリード線を取り出す。



3. 必ずパネル一枚一枚の導通テストを行う。 4. パネルを損傷しないよう石等を除去。



### <パネル設置>

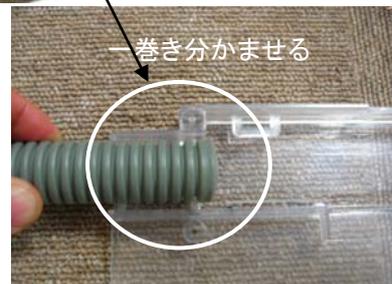
1. 支給される「パネル配置図」に従って電熱パネルの配置。



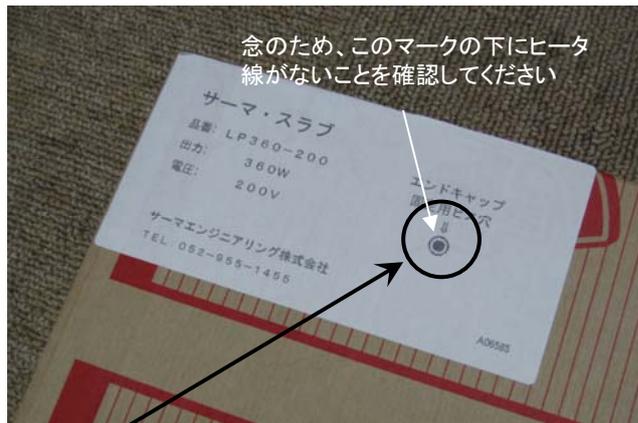
2. エンドキャップ(支給品)を用意し両端にPFS管をはめ込む。(ポイントとしては「カチッ」と音がするまで押さえる。PFS管は16mmφを使用。



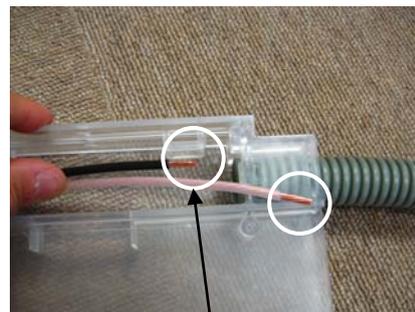
電熱パネルとエンドキャップに隙間がないように固定する



3. ビスを打ち込みエンドキャップを固定する。



4. パネル先端部の指示されている箇所へビス打ち。



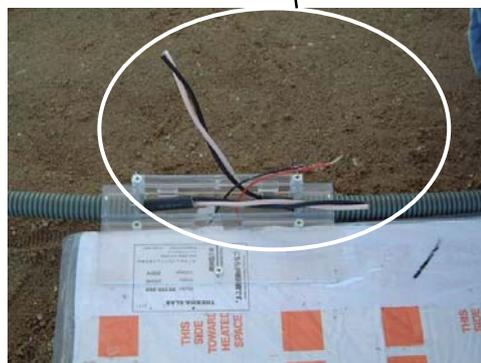
この長さで切る。

<パネル結線>

1. CV線を挿入。



2. CV線の被覆部分を取り除く。



3. CV線とリード線を圧着スリーブで接続。



4. 接続部にトーマーキャップはめ込み。



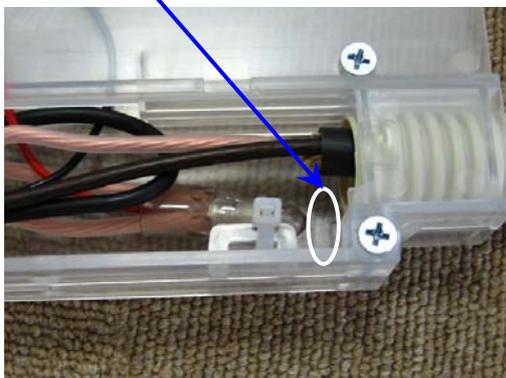
5. インシュロックで配線をエンドキャップ内に固定。



インシュロックは上と下両方に通す。



ここに空間があるようにインシュロックで固定。



6. シリコン注入開始。**PFS管の両端、リード線口、トーマーキャップ部の5ヶ所に確実に注入すること。**



7. 十分な注入。



8. 溢れ出るくらい十分に注入。



9. 確実に密閉。(「カチッ」という感触を得ること)



10. 結線完了後、回路毎に抵抗値の測定、絶縁チェックをし、検査結果をFAXにて連絡。



## <埋め戻し>

回路番号、センサ系統番号をPFS管、CV線に明記する。

1. パネルを傷つけないよう100mm程度の保護砂をかぶせる。



2. 埋め戻し前に、コントローラまたは制御盤の位置にPFS管を立ち上げる。



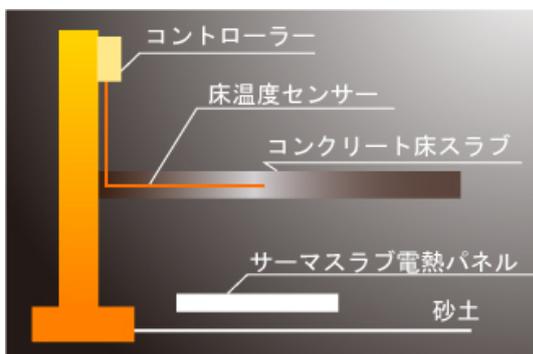
3. 保護砂の上にさらに砕石等をかぶせ、施工完了後しっかりと、プレートで転圧。この後に防湿シートを敷きつめ、回路毎に抵抗値の測定、絶縁チェックをし、検査結果をFAXにて連絡。



4. 床センサー用PFS管(22φ)を配筋に結び付ける。PFS管の先端はシリコンでしっかり密閉。センサーはコントローラまたは制御盤取付け時に差し込む。(ダブル配筋の例) (注)シングル配筋の場合には、配筋の上に乗せて配筋に結び付ける。



5. 下図がこの作業の完成断面図。



結線完了後、制御盤タイプの場合過熱防止センサ(TS)用PFS管22φを電熱パネル上にテープ等で固定



6. 最後に、コンクリート打設。これで、サーマスラブの電熱パネルが完全に埋設。ここでも再度、回路毎に抵抗値の測定、絶縁チェックをし、検査結果をFAXにて連絡。





サーマエンジニアリング株式会社

〒460-0002

愛知県名古屋市中区丸の内3-2-29

<http://www.therma.co.jp/>

営業所：東京、札幌、金沢、仙台、福岡